

平成30年度 役員選挙公報

理事選挙について

定数 11名
立候補者 13名

立候補者が定数を超えたため公益社団法人滋賀県理学療法士会選挙規定により会員による投票を行います

監事選挙について

定数 2名
立候補者 2名

立候補者が定数のため公益社団法人滋賀県理学療法士会選挙規定により無投票当選となります

平成30年4月

公益社団法人滋賀県理学療法士会
選挙管理委員会

理事候補 立候補者13名

理事候補 1

平岩 康之（滋賀医科大学医学部附属病院）

主旨

私はこれまで副会長、事務局長として、公益社団法人運営、事務局運営に携わってきましたが、当士会の事務局体制はまだ未熟であります。近畿で正規の事務所を持たない士会は滋賀だけになっており、このままの状態では法人を維持すること自体危ぶまれて来ると考えられます。事務局の整備は急務になっており、そのためには予算配分の見直しも必要ですが、財政基盤づくりも重要な課題となってきます。そこで、より強固な組織体制の構築に微力ながら尽力したいと考え、立候補いたします。

理事候補 2

西澤 一馬（彦根市立病院）

主旨

この度、滋賀県理学療法士会の理事に立候補いたしました西澤一馬と申します。私は彦根市立病院に勤務しており、主に急性期理学療法や中枢神経理学療法を専門に活動しております。県内の会員数は急速に増加しており社会における理学療法士のニーズの高さや職能団体としての勢いを感じる反面、理学療法士としての技能やその能力水準には不安定性もあり今後さらなる組織拡大を見据え会員一同の団結と繋がりが重要になると感じております。そのためには県内外における学術活動の活性化や地域内での研修活動の強化、またそれにより多くの士会員の皆様が参加できるような活動を展開したいと考えております。私自身も学びの途中ではありますが特に若い層の会員の方々が学び、その経験を活かせるようなコミュニティを創り若い力で盛り上げていけるよう滋賀県理学療法士会に尽力できればと思います。若輩者ではありますがどうぞよろしくお願いいたします。

理事候補 3

弘部 重信（滋賀県立総合病院）

主旨

これまで、当士会の副会長および学術担当理事として従事してまいりました。現在、理学療法士数は増加の一途をたどっており、また年齢構成も20～30歳代が最も多い状況です。理学療法士が将来不安なく従事できるよう、職能団体として学術活動だけでなく公益性のある活動が重要になってまいります。地域包括ケアは重要なキーワードであり、私たち理学療法士がどのような役割を果たせるのかは注目されております。また、県内の理学療法士ネットワークを構築し、情報交換や相互協力がおこなえるような仕組み作りも進めていかなければなりません。今後公益社団法人理学療法士会として何ができるのか、何をしないといけないのかを各理事や会員の方々とともに考え、行動していけるよう微力ながら貢献していく所存です。

理事候補 4

堀口 幸二（長浜赤十字病院）

主旨

現在、理学療法士の関わりは多方面となっていており、各分野へと多岐にわたっている。予防分野、介護分野、スポーツ分野などに関わる理学療法士は年々増加しつつある。スポーツに例えると病院での理学療法、スポーツ現場でのトレーニング、予防対策というように実地する場所も医療機関にとどまっていらないのが現状である。そのような現場、理学療法の提供ができるようなシステム構築が重要である。

また、大規模災害に備え、職能団体として災害支援を行う必要がある。状況により災害時支援が、様々な医療・保健・福祉分野の支援と共に被災者に少しでも有意義に機能するようにしていかなければならない。様々な分野で働く理学療法士が、仕事に対してもやりがいを持ちつづけることが出来るような環境、整備が必要と考えます。公益社団法人滋賀県理学療法士会理事としての役割と責任を持って活動していきます。何卒、宜しくお願いいたします。

理事候補 5

柴田 健治（大津赤十字病院）

主旨

近年の理学療法士に対するニーズの拡大と、理学療法士養成校の増加による理学療法士数の充足により、滋賀県理学療法士会の会員数も1000名を超える組織になりました。組織が大きくなるとともに、県士会の担う事業規模も拡大していきます。日本理学療法士協会も各種事業を、都道府県理学療法士会主体で実施する方向性を推進しており、ますます県士会の担う役割・重要性も高まってきています。

そのような中、その事業規模により見落とされがちなミクロな視点も併せ持ち、また、庶民的な感覚を持って、事業計画・事業の実施状況・予算の執行状況などの士会運営がなされるよう活動していきたいと思えます。

理事候補 6

酒井 英志（公益財団法人近江兄弟社ヴォーリズ記念病院）

主旨

この度、平成30年度役員改選にあたり、理事に立候補させていただきますヴォーリズ記念病院の酒井です。理事として平成16年度より士会活動に携わらせていただいております。

今、理学療法士の働き方は大きく変わろうとしております。在院日数短縮や入院支援に如何に寄与するか、また地域包括ケアシステムへの積極的な参画が求められてきております。士会も中央管理から二次医療圏でのブロック活動が中心となり、研修等も従来の集合型研修体制とブロック単位で開催するものの棲み分けが必要となってきております。勤務先でワークライフバランス、就労環境改善の重要性が叫ばれる昨今、士会活動も業務の見直しを皆で考える時期に来ているのではないかと感じております。

微力ながら士会員の皆様や、他の理事の先生方のご協力のもと、少しでもお役に立てるよう努力致します。ご支援、ご協力のほどよろしくお願い致します。

理事候補 7

川崎 浩子（滋賀医療技術専門学校）

主旨

今、日本理学療法士協会は、理学療法士の「質」の向上を目指し、卒後教育プログラムを見直し、新たな生涯学習システムの検討を行っております。理学療法士の急増により、質の低下が危惧される時代となり、理学療法士は「資格」ではなく、「質」を問われるようになりました。卒後教育は、この質の向上に直結した問題であり、職域を拡大させ、社会的地位を守る上でも重要と考えております。

私は、これまでの在任期間の中で、滋賀県理学療法士会の生涯学習管理と新人研修会の企画および運営を担当してまいりました。引き続きこの業務に取り組み、滋賀県士会の会員の窓口として、関係部署とのパイプ役となり、新しいシステムに会員の皆様がスムーズに移行できるように努めたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

理事候補 8

松岡 昌己（リハビリディサービスいきいき下田）

主旨

私は、滋賀県理学療法士会に入会して32年になります。その間、理事を17年間（うち副会長10年）務めさせていただきました。この数年間は、主として社会局理事として地域包括ケア推進を担当しています。士会内の担当部署を立ち上げ、県内の作業療法士会、言語聴覚士会と協力して滋賀県POS連絡協議会をつくり、県内7圏域で市町を支援するリハビリ専門職の組織作りを進めてきました。今後はそこで理学療法士が力を発揮し、そして市町や県民や他職種に理学療法の有効性や専門性を認識していただくことが重要と考えます。これからの活動を更に進めるため、再度理事に立候補いたします。

理事候補 9

宇於崎 孝（滋賀医療技術専門学校）

主旨

近年、日本の理学療法士数も急激に増加し滋賀県においても年々新人の数が増加しています。さらに、四月には医療、介護保険の改正もあり、理学療法士を取り巻く環境が大きく変わり、今後ますます理学療法士としての質が問われる時代になると思います。

私は理事を10年務め、主に研修事業など学術関係を担当してきました。また昨年開催した近畿理学療法学術集會では準備委員長をさせていただき、さらに滋賀県の学術部門の活性化を図る必要性を感じています。

今後は、専門分野ごとの研修会の充実をさらに進め、士会員の専門、認定理学療法士の取得率の向上を実現したいと思います。そして、県民の健康の維持、回復のために微力ながら努力させていただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

理事候補 10

吉田 環（(公財)豊郷病院）

主旨

滋賀県理学療法士会も約1000名となり、士会運営も昔とは変化してきました。また平成30年度は、診療報酬・介護報酬のダブル改定で私たちを取り巻く環境もより厳しくなっております。

その環境の中で、私たちが所属する施設や社会に対し理学療法士の存在感・必要性をアピールすることが大切になると考えます。

現場の意見を滋賀県士会に反映し、より良い士会活動が出来るよう微力ではありますが、理事に立候補し実現したいと考えます。

理事候補 11

松下 大輔（あそうクリニック）

主旨

2020年に開催される東京オリンピックやパラリンピック、2024年に滋賀県で開催される国民体育大会と全国障害者スポーツ大会などスポーツへの関心は非常に高くなっていると感じています。

私自身も理学療法士としてスポーツの現場で十年以上活動しています。現在、この経験を活かして国体支援部の部長として研修会を運営させていただいています。

研修会の運営を通じてスポーツへの関心が非常に高いことを感じています。また、具体的な勉強方法を知りたい、スポーツの現場で経験を積みたいなど、積極的な声を聞いています。スポーツ障害の予防、競技者のサポート、健康増進など理学療法士のスポーツへの関わり方も多岐に渡ります。

理学療法士の職域拡大、社会的な認知度向上、学術的な発展のために微力ではありますが、努力させていただきたいと思っていますのでよろしくお願いします。

理事候補 12

森 智子（野洲病院）

推薦主旨 文責 平岩康之

推薦者1 平岩 康之（滋賀医科大学医学部附属病院）

推薦者2 本白水 博（ケアセンターおおつ）

森智子氏は湖南ブロックリーダーとして滋賀県内でも先進的に地域包括ケアの構築、PT派遣に尽力されてきました。また、県内でも数少ない女性の管理者として、スタッフの人望も厚く、精力的に活躍されております。PTとして実績、人物とも申し分のない人材であると確信し、ここに推薦いたします。

理事候補 13

久保 貴弘（甲西リハビリ病院）

推薦主旨 文責 平岩康之

推薦者1 平岩 康之（滋賀医科大学医学部附属病院）

推薦者2 本白水 博（ケアセンターおおつ）

久保貴弘氏は甲賀ブロックリーダーとして現在活躍されております。以前理事の経験もあり、多数のスタッフを抱える管理者としてスタッフの人望も厚く職責を果たしておられます。PTとしての実績、人物とも申し分のない人材であると確信し、ここに推薦いたします。

監事候補 立候補者2名

監事候補1

前川 昭次（滋賀医科大学医学部附属病院）

推薦主旨 文責 平岩康之

推薦者1 平岩 康之（滋賀医科大学医学部附属病院）

推薦者2 本白水 博（ケアセンターおおつ）

前川昭次氏は社団法人設立時の理事、事務局長を経験され、これまでの士会の状況を深く知っておられる人物であり、また、臨床家としても滋賀県の理学療法士のリーダー的存在でもあります。そのため監事として適任として考えられるので推薦いたします。

監事候補 2

本白水 博（大津市立介護老人保健施設ケアセンターおおつ）

主旨

理事に就任して20年以上が経過し、そのうち代表理事(会長)として4期8年を皆様のご協力のもと務めることができました。その間、職能活動の推進並びに会員の資質向上に努めてまいりましたが4期8年で掲げた士会(会長として)の目標も大枠では達成することができ、新たな役員にバトンを渡す時期であると判断し、今回は監事に立候補させていただきました。今後は監事として今までの役員の実験も活かしながら、理事の職務執行の監査や理事会での助言等をしていく予定です。役員が多くは職場の仕事に管理業務も重なり、多忙を極めることも予想されますので、一部の役員の事務的な負担がかからないように注視していきます。

平成30年度役員選挙公報

平成30年4月

公益社団法人滋賀県理学療法士会
選挙管理委員長 小澤和義